

## 2 はたらく人とわたしたちの暮らし

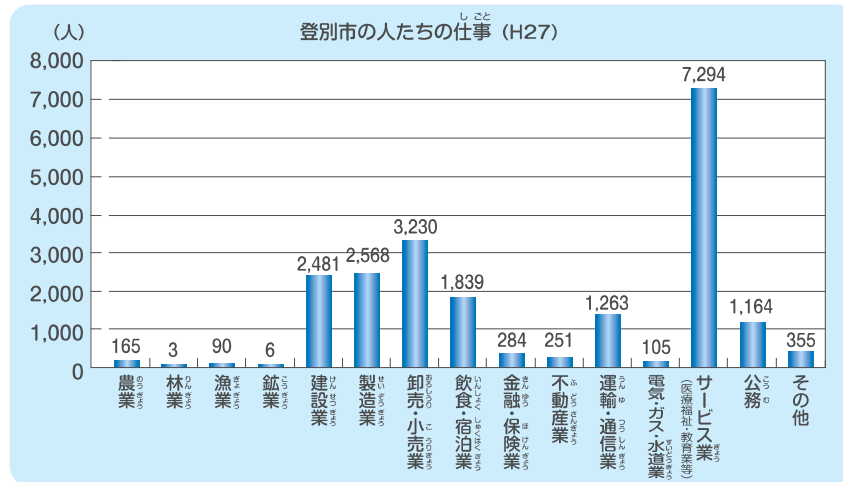


わたしたちは、まちたんけんをしたときに、登別市では、海で魚や貝がとれたり、ぼく場で牛やぶたが育てられたりしていることを知りました。また、まちのあちこちに工場やお店があることにも気がつきました。

そして、何といても登別には、古くから温泉があり、たくさんの人々がかん光におとずれています。

わたしたちの学級にも、温泉にあるホテルやお店ではたらいっている家の方がたくさんいます。

まちではたらく人たちについて、調べましょう。



④「登別市の人たちの仕事」(資料：国勢調査)

## 1. 店ではたらく人と仕事

みなさんは、おうちの人といっしょに買い物へ行ったことがありますか。

クラスの友だちと話し合ってみると、家によって買い物に行く店や、買い物のしかたにちがいがあつたことに気がつきました。





いつもスーパーマーケットに買い物に行くよ。



夜おそい時は、コンビニが便利だよ。

わたしたちの家ではどこで何を買っているのか、調べてみましょう。

## (1) 買い物調べをしよう

### どんなお店で買い物をしているのか調べよう

わたしたちのすんでいるまちには、いろいろなお店がたくさんあります。みなさんの家ではどこで何を買っているのでしょうか。家の人に聞いたり、いっしょに買い物に行ったりして調べてみましょう。

#### 買い物メモ



さとし 9 / 15

店	買ったもの
ほんや 本屋	本
電気屋	電池
くつ屋	長ぐつ
コンビニエンスストア	おかし アイス

#### 気がついたこと

本屋さんが、本をえらぶそうだんにのってくれたよ。

#### 買い物メモ



けいこ 9 / 16

店	買ったもの
スーパーマーケット	じゃがいも にんじん 玉ねぎ たまご ティッシュペーパー シャンプー

#### 気がついたこと

日曜日に、家ぞくみんなで買い物に行くことが多い。

みんなの家が、どこで買い物をしたのか、メモをもとにして表を作りました。



いろいろなお店で買い物をしているね。

## みんなの家が買い物に行った店

9月15日・16日

店	人数
スーパーマーケット	31
コンビニエンスストア	12
くすり屋	8
本屋	5
電気屋	3
よう服屋	3
その他	6

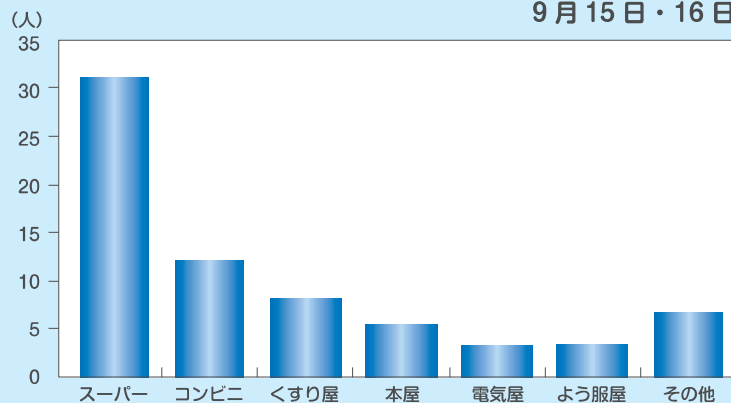
グラフの方が一目で分かるね。  
グラフで表してみよう。



表をもとにグラフをつくりました。

## みんなの家が買い物に行った店

9月15日・16日



スーパーに行った家が多いね。

## (2) 店のよいところを考えよう

### それぞれのお店のよいところを話し合ってみよう

買い物調べをして、みんながよく買い物に行くお店がわかりました。  
そのお店にしかないところや、よいところについて考えてみましょう。

#### スーパーマーケット

- ・売り場が広い。
- ・大きなちゅう車場があるので車で行ける。
- ・一度にいろいろなものが買える。
- ・売っている品物の種類が多い。
- ・ちらしをみて安売りの日や安い品物を選んで買える。



たくさんのお店が入っていたり、売り場が広くお店が大きくなったりすると「ショッピングセンター」とよぶんだよ！



#### せんもん店

- ・お店の人と話をしながら買い物ができる。
- ・家族の人数に合わせて必要な量だけ買うことができる。



#### コンビニエンスストア

- ・いつでもあいているので便利。
- ・買い物のほかにお金をはらいこんだり、荷物を送ったりするなどいろいろな利用の仕方がある。
- ・家の近くにあって便利。



たくさんの人が買い物に行っているスーパーマーケットのことをくわしく知りたいな。



### (3) 店を調べに行こう

#### ① 見学の計画を立てよう

いろいろなお店の様子や売り方の工夫を調べよう

近くのお店の様子や品物の売り方について調べてみましょう。

#### 店の調べ方の計画

##### 1 調べるお店

- ・スーパーマーケット
- ・せんもん店
- ・コンビニエンスストア

##### 2 調べること

- ・買い物をしやすくするための工夫
- ・売り場の様子や、品物のならべ方
- ・はたらいている人たちの様子
- ・品物はどこから来るのか

##### 3 調べ方

- ・お店の様子やはたらいている人たちの様子をかんさつし、わかったことをメモする。
- ・お店の人や買い物をしている人たちにインタビューする。
- ・お店のチラシを調べてみる。

##### 4 気をつけること

- ・ほかのお客さんの買い物のじゃまにならないようにする。
- ・インタビューは礼儀正しくする。
- ・売っている品物にはさわらない。



見学の時のやくそくをメモしておこう。

### (4) スーパーマーケットをたずねて

#### ① 店の様子

スーパーマーケットの様子や工夫を調べよう

買い物調べの中でも、利用する人の多かった、スーパーマーケットについて調べてみましょう。売り場の様子や品物のならべ方などを見てみました。



#### ④ 食料品売り場の様子

スーパーマーケットは、たくさんの品物を種類ごとにたなにならべて売っています。売っている品物は、食料品やいい、本、電気せい品、日用品などいろいろな物がたくさんあります。



品物が見やすくなっているね。



どこに何があるかわかるね。



大きなちゅう車場があるね。



ねだんがわかりやすくなっているね。



小さな子どもたちのせることができるよ。



しょうがいのある人のためのちゅう車場所だね。



赤ちゃんをお世話する部屋や車いすを使う人でも利用できるトイレもあるね。

## ② はたらく人の様子

お店では売り場の中だけではなく、売り場の外でもたくさんの人が仕事をしていました。お店の人たちはどんな工夫をしているのでしょうか。



お客さんが買いやすいように品物をならべています。たなの様子にいつも注意を払い、品物が整っていないときにはすぐにならべ直します。

品物の数が少なくなってきたら倉庫から運んできてすぐにならべます。

お客さんを待たせることなく、ていねいに品物をあつかうように心がけます。

特にお金の受けわたしをまちがえないように気をつけています。お客さんが自分で会計するセルフレジもあります。



お店では、魚や野菜などをいろいろな大きさに切り分けて売っています。お客さんの注文があればそれに合わせて魚を切ったり、もりつけたりします。

新せんな品物を清けつにあつかうように気をつけています。

トラックでとどけられた品物を、店内へと運び入れます。お店の品物が売り切れてしまわないようにとどけてもらう時間を決めて仕入れをしています。



お店では、お客さんが買い物しやすいように気をつけながら、たくさんの人がてきぱきとはたらいていたよ。

## ③ 品物はどこから

野菜や果物の売り場では、ねふだや品物の入っているはこから北海道をはじめ、日本や世界のいろいろな地いきから品物がはこばれていることがわかります。

近くのまちの伊達市からの野菜や壮瞥町のくだものもありません。環境や体にやさしい品物を各地から数多くそろえています。



👉 外国からはこばれてきたもの

👉 近くのまちでとれたもの



環境や体にやさしい食品

## 店長さんの話

たくさんの種類の安全でよい品物を、少しでも安く売するために、日本国内だけでなく、外国からも仕入れをしています。

野菜や果物は、青果市場などを通さずに農家から直接仕入れている物もあります。また、『地産地消』にも取り組んでいます。

このように、安全で新鮮な品物をできるだけ安く売するための工夫をしています。

最近では、農薬をへらして作った野菜など、健康のためによいとされる品物を買っていくお客様がふえています。



## 地産地消

「地元で生産されたものを地元で消費する」という意味で、近くでとれた物を近くで売るので運送費などがかからずに品物を安く売ることができ、作った農家の様子が分かるので安全で新鮮な品物を売ることができる。

また、スーパーマーケットのような大型店では、レジぶくろを有料にして、買い物バックを持参してもらうようにしたり、食品トレイや紙バック、アルミかんなどの回収ボックスを設置したりするなど、環境や社会のために、限りある資源を大切にしている取り組みもしています。

## (5) 商店街の工夫

### ① いろいろな商店街

#### 商店街の工夫を調べよう

登別市には、中央町、若山町・富岸町、登別駅前、登別温泉町に大きな商店街があります。

それぞれの商店街では、お客さんがたくさん来るようにいろいろな工夫をしています。



↑ 幌別中央通り



↑ 若山・富岸町の商店街



↑ 登別駅前の商店街



↑ 登別温泉町の商店街

わたしたちの町の商店街ではどんな工夫をしているのか調べてみましょう。

## ② 商店会の工夫

### 商店会の人たちはどんな工夫をしているのだろう

商店街では、お店をもっている人たちが集まって、商店会を作っています。



商店会では、商店街をさかんにして、お客さんによるこんで買い物をしてもらうために、いろいろなおまつりを計画したり、買い物についての様々な情報をホームページで発信したりしています。

グリーン・ピア商店会では、春にクリーンウォークというごみひろいをしたり、公園を整備したりする活動にも力を入れています。そして、夏にはサマーフェスティバル、冬には節分にあわせてオニ祭りを行っています。

チラシや広告などで品物をせん伝したり、お正月になると福引きや景品を出す大売り出しを行ったりするなど、お客さんがたくさん来るように工夫しています。

### 商店会の人の話



今は大きなお店がふえ、小さなお店は売り上げが落ちてきていることがなやみです。また、お店を継ぐ若い人が少なくなり、商店会に入るお店も年々へっています。

商店会では、お客さんがもっとたくさん来るようにみんなで知恵をしぼり、力を合わせていろいろな計画を考えています。

## 2. コンクリート工場ではたらく人と仕事 (1) 見学の計画を立てよう

### 工場を見学するための計画を立てよう

マリンパークに行くとき、国道の右がわに「北海道コンクリート」という大きな看板があります。そこでは、町にある電柱やたてものなどに使われるくいをつくっているそうです。

わたしたちは、登別市にあるコンクリート工場を見学することにしました。まず、みんなで話し合っ



① コンクリート工場

て、見学のじゅんびをしました。

### コンクリート工場の見学

3年1組 ○○○

- ① 見学に行く日 ○月○日 (○)
- ② 見学する工場 北海道コンクリート工業
- ③ 持ち物 見学メモ、筆記用具、カメラ
- ④ 調べてくること

#### ●つくり方について

- ・どんなせい品をつくっているのか。
- ・どのようにしてつくられているのか。
- ・原料は何を使うのか。どこからくるのか。
- ・どのような機械を使うのか。
- ・できあがったせい品はどこへ行くのか。

#### ●はたらく人について

- ・はたらいているときに気をつけていることは何か。
- ・どのような仕事があるのか。
- ・はたらく人の数はどれくらいか。
- ・はたらいている時間はどれくらいか。

#### ⑤ 調べ方

- ・自分の目で見る。
- ・工場の人に話を聞く。

## (2) 工場を見学しよう

### ① 電柱はどうやってつくるのかな？

#### 工場を見学して調べよう

工場の中に入ると、大きな機械の動く音が聞こえました。

機械のそばには、はたらく人がいました。機械がうまく動いているか注意をはったり、しんちょうに作業をしたりしています。

#### 電柱ができるまで

① まいた形の鉄筋を機械でまっすぐのばす。



② 鉄筋を組み立てて、形をつくっていく。



◎ セメントと砂、砕石、水などをミキサーでまぜて、コンクリートをつくる。



③ 組み立てた鉄筋を入れた型わくの中にコンクリートを流しこんでいく。



④ 回転させ、つつのようになる。



#### ○ 工場でのメモの取り方

- ・ 大切だと思ふことをかんたんに書きとめる。
- ・ 絵の方がわかる時は、かんたんにスケッチする。
- ・ カメラは、工場の人にことわってから使う。



⑤ 6時間ほど70度のじょう気を通し、強度を高める。



⑥ せい品けんさをした後、さらに強度を高める。





## ② どんな工夫をしているのかな？

せい品<sup>ひん</sup>をつくるために、特<sup>とく</sup>に大切にしていることをたずねてみました。

### 工場<sup>工場</sup>の人の話

わたしたちは、より安全に、安くよいものをつくることを大切にしています。そのために、さまざまな工夫<sup>くふう</sup>や努力<sup>どりょく</sup>をしています。

たとえば、毎月1回それぞれのチームで話し合いをして、きけんなことがないように気をつけています。

また、よりよいものをつくるために勉強<sup>べんきょう</sup>する場をもうけたり、研究<sup>けんきゅう</sup>をしたりしています。



↑ けんさの機械



## ③ どんな仕事があるのかな？

ほかにどんな仕事があるのかを聞いてみました。



### じむ所の仕事

大きく分けて、生産・業務の二つの係で仕事をしています。

生産の係では、何をどれだけつくるか、せい品の品質<sup>ひんしつ</sup>のチェックやアドバイスなどをしています。

業務の係では、はたらいている人が安全に仕事ができるよう気を配っています。



### 機械のしゅう理などの仕事



工場では、たくさんの機械<sup>うご</sup>が動いています。もし、その機械がこしょうしたら大変です。しゅう理<sup>しゅうり</sup>たんだん当<sup>たん</sup>の人は、工場にあるすべての機械をしゅう理できなければなりません。この仕事をおぼえるのに、10年かかりました。



工場には、電柱<sup>でんちゅう</sup>やくいをつくる人のほかにも、いろいろな仕事をする人がいることがわかりました。

## ④ どのようににはたらいているのかな？

次に、工場ではたらいている人について聞いてみました。

### はたらく人について聞いたこと

- ・この工場では、ふだんやく85人がはたらいている。
- ・ほとんどの人が登別市内から通っている。
- ・通きんには、車を使う人が多い。
- ・昼ごはんは、休けい室でおべんとうを食べる。
- ・年に1回けんこうしんだんをうけている。

### 資料「はたらく人たちの1日」

	午前					午後					
	8時	9時	10時	11時	12時	1時	2時	3時	4時	5時	
月曜日 ～金曜日	休けい					昼食	休けい				
土曜日 ・日曜日	お休み										



↑ 作業の様子

## ⑤原料はどこからくるのかな？

わたしたちは、電柱やくいの原料となる鉄筋やセメント、砂、碎石などがどこから運ばれてくるのか、工場で聞いたことを地図にまとめてみました。



## ⑥せい品はどこへ行くのかな？

工場では、さまざまな町や会社からの注文により、多くのせい品をつくっています。係の人がせい品の行き先や運ぶ時に気をつけていることを教えてくれました。



この工場で作られたせい品は、道内各地にとどけられ、使われています。大きなトラックにせい品をのせて運んでいます。

長い時間かけて運ぶことも多いので、と中で点検しながら運んでいます。



北海道で使われている電柱のほぼ半分は、この工場で作られているそうです。

## (3) 見学メモからまとめよう

コンクリート工場の見学メモをもとにして、わかったことや思ったことなどをノートにまとめましょう。

また、自分が考えたことや感じたことについてもノートに書き加えましょう。

### 調べて感じたこと

わたしは、コンクリート工場で、安全に気をつけながら、いろいろなコンクリートせい品をつくっていることがわかりました。町の中で目にして電柱やコンクリートせい品が、たくさんの工夫と努力によって、大切につくられていると感じました。

④ ○○さんのノート



### 3. ここは温泉のまち

#### (1) 登別温泉の見学の計画を立てよう

登別温泉は、支笏洞爺国立公園の中にある有名な観光地です。毎年、観光客がおおぜいやってきます。「日本の温泉100選」で、1位に選ばれたことがあります。

登別温泉には、たくさんのホテルやみやげ物店、飲食店などがあり、そこではおおぜいの人々がはたらいています。

登別温泉におおぜいの観光客がやってくるのには、なにか秘密がありそうです。みんなで調べてみましょう。

#### 調べてみよう

- ・どんな種類の温泉があるか。
- ・ホテルではたらいている人たちは、どんな仕事をしているか。
- ・観光客をよぶためにどんな工夫をしているか。
- ・温泉のほかに、どんな観光施設があるか。
- ・観光客は、どこから来るのか。

## (2) ホテルではたらく人々をたずねよう

登別温泉をおとずれたわたしたちは、ホテルではたらく人たちにインタビューをしてみました。



#### お客さんをむかえる仕事をする人の話

わたしたちは、お客様が来てから帰るまで、安全に気持ちよくすごせるよう心がけています。

このごろは、海外からのお客様も多く、さまざまなしつ間にも答えられるように勉強をしていますし、大切なことはメモをとるなどして、すみやかに対応できるように、いつも気をつけています。



#### 料理をつくったり、かたづけたりしている人の話

わたしたちは、仕入れや調理、かたづけなどの仕事を分たんして行っています。お客様の希望した料理を用意することをはじめ、あたたかいものや冷たいものが一番おいしく出せるように工夫しています。

また、えいせいめんにも十分注意しています。そして、なによりうれしいのは、お客様が「おいしい。」と言って、食べてくれることです。



#### その他の仕事をする人の話

ほかにもいろいろな仕事があります。例えば、予約の受けつけや部屋のそうじ、ふとんの上げ下ろし、おふろのかんり、夜の見回りなどです。

これらの仕事もすべてお客様が気持ちよくすごせるように行っている仕事です。

## はたらく人たちの1日

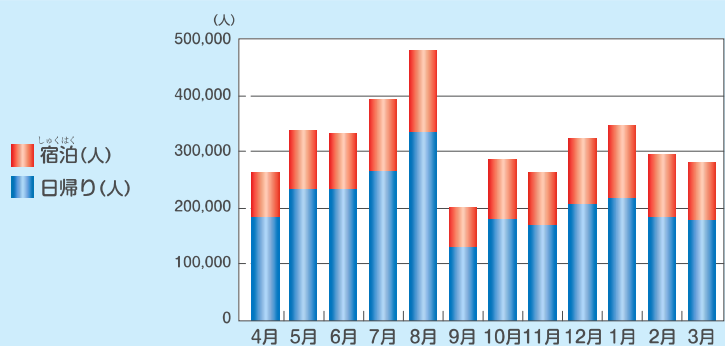
わたしたちは、それぞれの仕事の内容によりはたらく時間がちがいます。朝早くからはたらいている人たちもいれば、夜中にはたらいている人たちもいます。

また、人手がひつような時には、人数を多くするなど、いつもお客さんのことを考えて、はたらく時間を決めています。



## (3) 観光客をよぶための工夫

登別温泉には、春から秋にかけておおぜいの観光客がやってきます。1年間では、380万人もの人がやってくるのです。



④ 登別温泉の観光客数の月別グラフ(平成30年度)

## 登別地獄まつりの様子



## 地獄まつり実行委員長さんの話

登別温泉には、毎日たくさんの観光客がおとすれませんが、とくに8月末の「登別地獄まつり」には、3日間で約6万人もの観光客がおとすれて温泉のまちは大にぎわいとなります。

温泉街では、「えんま大王」や「鬼みこし」をくり出し、和だいこを打ちならしたり市民がさんかして鬼おどりをおどったりして、おまつりを盛り上げます。



登別温泉では、この地獄まつりのほかにも2月には豊かな温泉が出ることにかんしゃする「登別温泉湯まつり」があります。このほか、カルルスでは、3月に「カルルス温泉冬まつり」があります。

このようなおまつりを行い、市民や観光客にたくさん来てもらえるような工夫をしているのです。

## 登別国際観光コンベンション協会の人の話

登別温泉にたくさんのお客さんが来てもらえるように、温泉に入るだけでなく、いろいろな工夫をしています。

例えば、地獄谷や大湯沼などのうつくしい景色を楽しんでもらうための遊歩道をつくったり、温泉街の電柱をしらかばの木にランプがつり下がっているような街路灯にしたりするなど、お客さんが気持ちよくすごせるようなまちづくりを進めています。

また、テーマパークである「のぼりべつクマ牧場」や「登別マリンパークニクス」、「登別伊達時代村」などのパンフレットを配ったり、イベントのポスターをつくったりして、せん伝も行っています。





① のぼりべつマ牧场



② 登別マリンパークニクス



③ 登別伊達時代村



観光ボランティアガイド会のみなさんは、「観光客をあたたくもてなす」ことを心がけて、おとずれた観光客に気軽に声をかけ、地獄谷を案内してくれます。



④ 観光ボランティアガイド会

#### (4) 観光客はどこから来るのかな？

登別温泉のパフレットの文字は、日本語だけでなく、外国語も使われています。「観光客は、外国からも来ているのかもしれない。」そう思ったわたしたちは、観光客がどの国から来るのか調べてみました。



中国	132,545人	道内	1,819,128人
韓国	111,739人	道外	1,964,163人
台湾	130,287人	計	3,783,291人
香港	37,107人		
シンガポール	13,799人		
その他の国	60,415人		
計	485,892人		

⑤ 登別温泉をおとずれた人の国別・道内外人数（平成30年度）



外国からもずいぶんたくさんの方が来ているんだね。



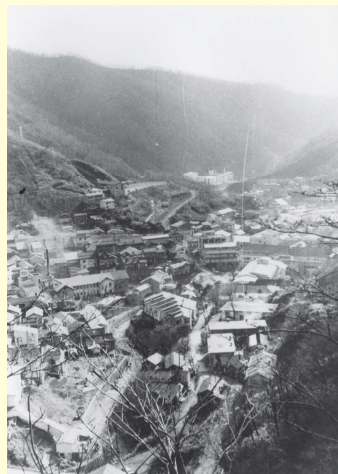
わたしたちは、登別温泉ではたらく人たちの仕事の様子やたくさんの工夫や努力を知りました。これからも、登別温泉がたくさんの人たちに親しまれてほしいと思うようになりました。

## 1. 登別温泉の歴史

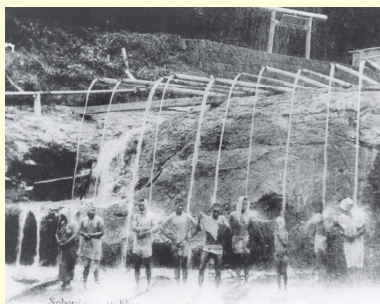
登別温泉は、約350年以上前から、温泉のわき出ていることが人々に知られていました。ここに、最初に湯宿をたてたのは、岡田半兵衛という人でした。

その後、登別のまちをひらき、温泉を大きくしたのが滝本金蔵という人です。

金蔵は、明治14年(1881年)に自分のお金を使って登別温泉に通じる新しい道路をつくりました。さらに明治25年(1892年)には、冬でもとまれる温泉場にするなど、登別温泉のもとをきずいたのです。



昭和40年ごろの登別温泉の様子



明治時代、温泉場の様子



昭和47年第9回登別温泉地獄まつりの様子

## 2. 温泉と乗り物の話

登別温泉に行くための乗り物も、道路が整えられるにつれて変わってきました。温泉に行く最初の乗り物は、明治24年から使われた客馬車です。当時は登別のまちから温泉まで2時間くらいもかかったそうです。

その後は、大正4年に、鉄道馬車といって線路の上を馬車が走るようになりました。

大正7年にじょう気きかん車が走りましたが、上り坂になると、石炭をたくさんくべなければならず、えんとつから火のこが出て、山火事になったこともあったそうです。

大正14年には、電車が走るようになりましたが、上り坂では、電力が不足して進めなくなり、お客さんがおりて電車をおしたこともあったそうです。

昭和8年には、今の道路をバスが走るようになりました。



大正時代、紅葉谷を走るじょう気きかん車／「写真で見る登別温泉史」